

「計修会」で鍛えられた青春 人生がさらに面白くなる! 「学び続ける習慣」のススメ

商学部に入學し、2年次からは
公認会計士の勉強に打ち込んだ。
卒業後は経済の知識を生かすべく、
茨城相互銀行へ入行。
出身地の支店に配属され、
地元企業をサポートしながら
地域経済支援に貢献してきた。
学生時代の思い出、役職付きに
なってからも勉強に打ち込んだ日々、
そして将来の夢について
語っていただいた。



植木 誠さん (昭52・商業)
筑波銀行 取締役会長

うえき まこと ●1954 (昭和29) 年生まれ。茨城県出身。専修大学商学部商業学科卒。茨城相互銀行入行後、茨城銀行(ともに現・筑波銀行) 取締役審査部長、同行取締役営業統括部長、常務取締役リスク統括部長、筑波銀行専務取締役営業本部長、代表取締役副頭取ほかを歴任。16年から現職。趣味は読書で月間十冊程度を読む。

スポーツ万能の少年期から一転 大学では勉強に打ち込む日々

子どものころから運動が得意で、中学校では器械体操、高校ではそれに加えて空手を始めました。運動が得意なことは自他ともに認めており、ハイジャンプで1m70飛べました。中学では陸上部でなかったものの、大会に出場。高跳びで優勝し、さらに400m走の選手がいなかったということで出場すると2位になり、学校の代表選手になりました。高校では校内で最も運動ができると自負しており、私の高校では有名だったと思います。

親はスポーツで進学するものと考え

ていたようです。しかし、いざ運動で有名な大学のセレクションへ行ってみると、思っていた以上にハードであり、「このまま進学したら死ぬかもしれない」と真剣に思いしらされました(笑)。

当時、ほとんど受験勉強をしていなかったため、一浪しました。専修大学を選んだのは受験科目に自分が得意としていた数Iがあったからです。勉強方法はとにかく「教科書を暗記してしまえ」と、数I、英語と丸暗記でした。

商学部に入って1年目は、解放感からか遊んでばかりで、親から叱責されるありさまでした。学費を出してもらえなくなるとマズいのと、実家は商売をしていたこともあり、大学2年の時

に公認会計士の試験研究会「計修会」の門をたたき、会計士を目指してそれからは四六時中勉強しました。昔は3次試験まで7科目あり、受験勉強以上に取り組みました。

今は違うかもしれませんが、計修会には初年度は大勢が入ってきたものです。最初は生田校舎で学び、1~2年目の勉強について来られない学生は落とされ、本当にやる気のある学生だけが神田校舎で学ぶこととなります。机には間仕切りがある快適な環境で、シャワーも完備されており、狛江の下宿に帰るのは寝る時だけという生活でした。唯一の息抜きは神田界隈で仲の良い商業学科の友達とコーヒーを飲むぐらいです。

勉強のほうは、1年目に簿記、会計、原価計算を学び、次に理論科目が入り、経済、商法、監査論と人生のなかで最も勉強しました。一通り学んで試験を受けるまでには2年半が必要です。私は2年生から勉強を始めたので、学生時代での受験にはワンチャンスしかありませんでした。残念ながら合格はしませんでした。そこで経済を深く学んだ成果を活かすために浪人はせず、銀行へ就職する道を選んだのです。

「地域のために未来のために」 会長職として全般において舵取り

昭和52年に茨城相互銀行(のちに茨城銀行)へ入行し、地元である真壁町の支店に配属となりました。当時は高度経済成長期ということもあり銀行の営業は預金獲得が主な業務でした。金利は都市銀行、地銀、信用金庫ともに一律の時代でしたから、いかにお客様と



地元・茨城の祭り「土浦キララまつり」「水戸黄門まつり」「下妻まつり」「千人おどり」には筑波銀行の職員が毎年参加。今夏も30度を超える8月5日、総勢392人が踊りを披露して地域を盛り上げている。写真は下妻まつり「千人おどり」の皆さん



銀行のイメージキャラクター「TAMA」と

接して信頼関係を築くことが大切かを考えて仕事に打ち込んできました。

入行当初は会計について学んだことがほとんど業務に生かされず、「無駄だったのでは」ということもしばしばありました。学生時代の勉強が本当に生かされたのは、融資係になってからです。東京の綾瀬支店(足立区)に配属となり、融資を任せられ、決算書の見方、分析などにはさすがに学んだことが大いに役立ちました。

人事を任せられるようになり、40歳の時に主計課長として、銀行の決算業務に立ち会うようになるとさらにそれを実感しましたね。その後、支店長など責任ある立場となるに従い、経済の見方など身に付いたものが助けてくれました。計修会では、マクロ経済、ミクロ経済の見方をちゃんと教わっていただけからとても助かりました。

銀行員としてさまざまなことがありましたが、従来の商法から会社法に変わった時は参りました。平成17年ですが、体系化されていたものが大幅に変更されてしまった。「条文も大幅に変わって、困ったな」ということで、すでに役員でしたが銀行の通信教育を申し込みました。人事からは「本当にやるんですか!？」と(笑)。勉強の時間

を確保するのはさすがに大変でしたが、やはり銀行員として知っておくべきである、と考えます。現在はそういった知識を生かし全般を見ながら、地域のお客様のために、将来に向けた銀行の舵取りをしています。

銀行員として本当にやりがいを感じるのは、企業再生に携わる仕事です。銀行間、債権者間の調整であらゆることを行いますが、それが上手いきき、会社が残った時「地域のために守ることができた」と実感します。いままで勉強してきたこと、苦勞してきたことが「この瞬間のためにあったのだ」と思えるんです。若い働き手の方にも、そんな思いをぜひ実感してほしいですね。

若い方には「絶対にくさるな」「どんな時でも自分の未来を信じてみる」と、いつも伝えています。また、もし銀行員を目指すなら、会計、会社法などの知識は不可欠だと思います。

職域支部では会長を務め 校友どうしの縁を大切に

茨城銀行と関東つくば銀行が合併し筑波銀行となったのですが、両行には専大出身者が100人弱おり、関東つくば銀行には鳳会があったので、合併後に職域支部の「筑波銀行鳳会」として

活動しています。「同じ生田の長い坂を登って苦勞した者どうし、一緒にやっつけていきましょうよ」と、緩い連帯でつながる支部として運営しています。何かの集まりの時に「これだけの専大の仲間がいるんだ」と、実感すると心強く、気持ちの励みになりますね。たまに母校の校歌、応援歌を皆で歌うのもいいものです。

将来の夢は、銀行を辞めたら、大ファンの日本ハム(ファイターズ)の追っかけをしたいと思っています。いまも東京でやる試合はほとんど見ていますが、ホームである札幌に移り住むかも知れません(笑)。(談)

